

だっこするよ

2024年2月



北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

変わることを恐れずに楽しもう

答えは、子ども達の中にあるはず

立春を迎える季節、水仙が楚々と咲いています。凍える冬を越えて、生長する植物の力強さと気高さに、思わず立ち止まって触れたいくなります。

0歳さんから、近隣の公園へ毎日出かけ、元気に過ごしています。友達の見本をしたり、次は自分の番だと主張し合ったり、アクティブラーニングをしています。梅の木公園の紅白梅を愛でて、赤羽自然観察公園の池に張っている氷を掴んだり、広場で凧揚げをしたり、四季折々、恵まれている自然環境の中で、太陽を浴びて、走り回っています。

先月末、どんどんさんの「大きくなったねの会」が開かれました。園行事は、子ども達が、話し合いで決めています。「成長した姿を見て欲しいからやりたい。」また、ある子は「のびのびさんやぐんぐんさんたちに僕たちのカッコいいところを見せてあげたい」とどんどんさんの開催が決定しました。年長児の誇りをもって、役割を果たそうとする姿や、自分達の頑張りを見てもらって、喜ばせてあげたいと他者視点に感動しました。

大人が、指示して行う行事ではなく、大人は、協力者として、気持ちを合せながら進めていきました。主役は子ども達。自分たちで考え、時に気持ちが入らず、主張がぶつかり合い、バラバラになりそうな時も、誰かの面白いつぶやきから笑いがこぼれ「もう少し頑張ろうよ」と励まし合って、活動を創っていく姿は、とても頼もしく感じました。本番は、個

性豊かな子ども達の相互作用で、更に温かく、失敗があっても助け合い、笑い合って表現できました。それは、保護者の皆様に伝わったと感じます。

今年度の行事の見直し、職員間で共有したねらいです。

- ・子ども主体の行事にする。子どもの声を聴く。
- ・普段の生活と遊びの延長線にあるものとする。
- ・取り組みは、子ども達が話し合い決める。
- ・子ども、保護者、保育者誰もが楽しめる会にする。

2024年度の運動会は、気象の変動から、開催時期も子ども達の負担が無いように春へ。また、従来運動会は、体力増進や2か月近く練習したものを保護者に披露する会でしたが、ねらいも「運動遊びを親子で楽しむ」として「親子スポーツフェスティバル」に変えていきます。今までの種目で楽しかったことなど取り入れ、親子共に運動を楽しみましょう。

また、「ワクワク」や「発見」そして「面白い」をもっと増やしたい！アート活動を取り入れていきます。現在、体操と英語を月に2回行っており、体操は引き続き行い、英語をアートへと考えております。

以前より、幼児期の感性教育の尊さを感じておりました。地域の自然環境をフルに活用して、日々子ども達は、脳も体も健康に育っています。その自然体験→全身の皮膚感覚への刺激→五感から得たものを自由に表出させてあげたいと考えていました。子ども達は泥や水や植物など自然と一体になり、呼吸をしています。幼児期の脳センサーは、自然世界と共生していきます。今後、バーチャルな AI 社会を生きていく子ども達が、自分であることの感性を見失わないように、また、未知なものを創造していく力、つながる想像力、色、素材、カタチ、美的センスを刺激したいです。東大名誉教授佐伯胖氏は、「アートは物を知る営みの原点」と書かれています。げんきNo.178エイデル研究所 発行

小学校からの図工は、教科として到達目標があり、上手い、下手など評価も出てきます。全身の感覚で生きている今、仲間と自由に遊びながら、自分の描きたいものを描き、自分の「面白い」をその手から生み出して欲しいです。

異年齢保育に切り替えて本当に良かったと感じる毎日です。共に生活することの意味は大きく、自然な関わりが生まれています。小さな子の存在は、大きな子の優しさを育み、教えてあげたことの自信や喜びに。小さな子は、大きな子を憧れの存在として、自分も成長したいという気持ちを持ち、自立しようと頑張っています。なんだか温かくて最高です。

写真は、おおきくなったねの会 みんなで楽しむぞ!!地球どんどん